

# 祝・新生活

社会福祉法人さざんか会法火広報誌『おーぷん第68号2016春』

発行 さざんか会法人本部 船橋市行田2-8-1 ☎ 047-404-1135

編集 おーぷん編集委員会(けいよう) 船橋市二和西5-10-1 ☎ 047-411-8377

高齢者への介護事業や障がい者への福祉サービス事業に対して、その働き手が全国的に大変不足している、という事態はいつ頃から始まつたものでしょか。随分以前からであつたことは間違いない、例えば新設された特別養護老人ホームが、満床ベッド数の半分しか入居者を受け入れられない。満床を担うだけの職員を採用することができ

なかつた、等は以前から度々耳にしました。自身の感想として、職員の採用に大変難儀を覚えることが続きます。例えば、毎年幕張で開催される国際会議場を借用しての福祉職への就職フェア、昔は新調スーツ姿の若者が押すな押すなの態で参加していくもの。最近はその数が激減して、時には閑古鳥が鳴いています。

なぜ、こんな事態に…。昔から言われて来たことですが、"きつい"、"汚い"、"給料安い"。介護等の職に対する、この形容は何でしょう。対象者である高齢者や障がい者に対して、あまりに失礼ではないでしょうか。こんな評判が一人歩きして、好ましくないイメージが作られ、結果この職が忌避されたものか。

## 社会福祉法人さざんか会理事長 宮代隆治

# 平成28年度に向けて

おーぷん68号紙面

(敬称を略しています)

P 1-2

理事長 宮代隆治

P 3-4 権利擁護はいま

ゆたか福祉苑 馬場勝江

P 4 寄付御礼コーナー

P 5 寄稿 「卒園に向けて」

親の想い、願い

さざんかキッズ：佐藤江美

P 6 とらのキッズ：山下時子

P 7 児童の短期入所

とらのこキッズ

管理者 中川公二

P 8~ 事業所冬だより

カメリアハウス

P 9 ゆたか福祉苑

P 10 のまる、けいよう

P 11 グループホーム

おーぷん67号感想

P 12 とらのキッズ、

さざんかキッズ

P 13 北総育成園

副園長 白樺久子

P 14 笹川なずな工房

支援員 竹内愛子

P 15-16 ランプ発

管理者 山田朝広

P 17 後援会だより

P 18 市と防災協定締結

編者の一燈照隅

のまるの前景



“給料安い”は残念ながら国による各種統計からも歴然とした事実のよう。しかし、“きつい”、“汚い”は看過できません。きつくない仕事なんてあるので伴うきつさは、どこにだって誰にだってあって当然では。汚いは何をもってそういう言われるのか。物理的な汚さ…、なればそれを取り除き、清潔、快適な状態を作り心地よい環境を提供できるなら、それは正に聖職の技と言えるでしょう。

これら一連の悩みを、社会的責任として捉え、国の事業として積極的に取り組むという姿勢が希薄でした。明らかに弱い立場、救済の要される場合に公的制度として何らかの手を打つ、といったような昔の“措置制度”が典型でした。そんな制度に、多額の予算は組まれません。40年以上この仕事に従事しましたが、“給料安い”は残念ながらずっと横たわる問題です。今日の福祉現場職での人材不足の背景は、給与等職員待遇面では特に政治や行政にある因は免れませんし、それを是認してきた社会全体も問題にしなければなりません。それでも、障がいのある人たちに対して、その心身の成長をお手伝いしたり、困難を来たす生活

“障害者基本法”、“障害者権利条約”、“障害者虐待防止法”そして“障害者差別解消法”等様々なルールが作られ、障がいのある人の人権が尊重され、一人の人間として平等に存在することが当たり前の社会実現が期されています。なぜなら、不當に差別されたり、排斥されたり、虐待されたりの理不尽な存在を強いられた残

自分の始末に難儀する高齢者や障がい者の面倒を見るのは、家族の責任であり中でも女性の責務であるといった風潮がこの国を支配していました。良き母、良き妻像とそれらが重なり、それはあたかも美德であるとの価値観が広く肯定されていたことも事実です。



よいしょ！のまる餅つき大会

お役に立ちたい、と希望して門戸を叩いて下さる人たちがあります。本当にありがたいし、嬉しいことです。

当たる前の社会づくりに、私たちには障がい当事者、ご家族と一緒に先頭に立つて進まなければなりません。その時、私たちの職務や職責に誇りと自信を持たなしくして、それは不可能だと思います。その為には、多少の余裕をもってこの仕事にじっくり取り組まなければなりません。それが許される職場づくりが求められています。

新年度を迎える時期、障害福祉をめぐる環境も決して楽觀は許されません。今年度実施された報酬改定の有様を見ても分かるように。障害福祉の現場、その

時代々で様々な問題がありました。決して順風満帆ではありません。その都度、皆で力を合わせて乗り切ってきました。横たわる課題を認識しつつ、掲げた理念や事業の遂行に、邁進の決意が改めて要られるようです。



# 権利擁護はいま 成年後見制度の利用にあたり

ゆたか福祉苑 馬場勝江

成年後見制度が開始され、今まで幾度となく説明会や講習会が行われましたので、私も簡単な概要についての知識はありました。しかし、自分が亡くなつたことに伴い、考へていたよりもずっと早くにこの制度を利用することとなりました。

成年後見制度を利用して済む方ではないだろうか」と考えたのです。後見人の仕事は①身上監護、②財産管理、であることは、つてはまだまだ先の話であるが、親としては今まで当たり前に慣れていました。しかし、主に「…」という思いがありました。また、成年後見は一度開始されると、被後見人である息子が死亡するまで続きます。息子はまだ33歳。平均寿命から考えても、この先50年以上の長い期間にわたり、この制度に縛られることが多い抵抗感があつたのです。

結果的には、成年後見制度を利用する以外に方法がなかったため

めに、家庭裁判所に申し立てを行うこととなりました。  
実際に成年後見制度を利用するにあたり、私が驚きや不安を感じた事、「こうあって欲しい」と思ったことを書いてみようと思います。

※家庭裁判所に申し立てを行いたいことを相談しに行くと、いきなり後見人候補者である私の

年齢・被後見人である息子の財産状況・相続財産のことを質問され不快を感じずにはいられませんでした。

年齢・被後見人である息子の財産状況・相続財産のことを質問され不快を感じずにはいられませんでした。

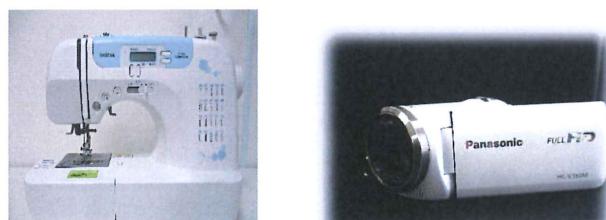
家庭裁判所にとつては当たり前の質問事項であるかもしだれませんが、かなりパーソナルな情報であり、大っぴらに他人に話すような内容ではありません。相談窓口は個室でもなければ、隣の方との衝立もないような場所。個人の情報を質問するのであれば場所も考えるべきですし、どうしてその情報が必要であるか説明してから質問して欲しいと思いました。

次に、家庭裁判所から「申し立てセット」が手渡されます。手引きは丁寧に説明されていますが、申立書は「後見」・「補佐」・「補助」すべてがセットされているので、どの書類に記入する必要があるのか、わかりにくくなっています。

セットではなく「後見」・「補佐」・「補助」それぞれの申立書が用意されていれば、記入がしやすいと思いました。申立書は、裁判所のホームページにフォーマットが用意されていますので、パソコンが得意な方は少々自分で作成することもできます。



※私は、相続の手続きのためにこの制度を利用することになったのですが、家族の中に専門的な知識を持っている者がいるので、専門家の介入は必要がないことを申立書に記載し、口頭でも説明しました。ただし、後見信託に移行する際には、弁護士しか手続きができないということでしたので、後見信託への移行のみ弁護士に後見人として介入してもらいたいと最終面談でもお願いしました。



東京YMCAから寄贈されました

しかし、実際に審判が下り書面が到着すると、身上監護については私、財産管理については弁護士〇〇〇、となっていました。審判が下るとこれを不服として取り上げることができません。弁護士は裁判所が選任しますので、自分で弁護士を選ぶこともできなくなります。弁護士報酬も発生しますし、その報酬も家庭裁判所が決定することになりますので、最後に請求されるまで金額も不明なままになります。弁護士の選任については、弁護士会からの推薦であるとの説明がされました。選任された弁

護士がどの分野に精通している弁護士であるかはあまり考慮されていないように思われます。もし、選任したい専門家がおられる方は、注意していただきたいと思います。

実際に成年後見制度を利用するようになりましたが、この制度が本当に息子にとつて有意義な制度であるのか考えさせられました。家族にとつても、煩雑な手続きが必要となりますし、時間・体力・忍耐を必要とします。この制度が真に有意義な制度として確立されていくことを願っています。

共同募金の助成いただき  
さざんかキッズは  
マットを購入しました。



これらのキッズは、共同募金の助成を受け購入しました  
ジョイフルハウスと巧技台

さざんか会後援会より、設立記念に時計を  
寄贈いただきました。

# 寄稿「卒園にむけて」

## 親の想い・願い

### ■やがんかキッズ

**保護者・佐藤江美**

私は知的障害の息子がいます。一歳半で発語もなく指さしあせば保健師に相談。一歳まで様子見になりましたが、なんの変化もなく発達相談センターに通い、すくすく親子教室、ひまわり教室、やがんか学園、さざんかキッズに通りといふ優秀な道を歩んできました。

お姉ちゃんが通っていた幼稚園に入園を希望、面接をしましたが、全くお話になりませんでした。指示が通りず座っていらっしゃらない……。私も「ダメだうけど、もしかしたら?」という甘い考えがあり、息子にはとても辛い思いをさせてしましました。

その日から考え方を改め、親の希望を優先するより息子の為になる進路をみつけてあげよう、発語がないので息子が楽しく過ごせる所にしてあげよう……。頭ではわかりきっていますが、じや自分の一言で進路が決まってしまいかと思いつし、支援学級か支援学校かの判断ができませんでした。

主人は、最初から支援学校を希望していました。主人の考え方を聞いていました。

私も単純なので周りの意見に流されっぱなし……。でも、最優先すべきは周りの意見ではなく、息子が毎日楽しく通える所を見つけ、親の私達が納得し、後悔しない進路を決めてあげる事だと思っています。



お姉ちゃんは自分と同じ学校に通えると思っていましたが、地域の小学校には支援学級がないので、同じ学校には通えない事を理解してもらいうが大変でした。理解するまで毎日質問転入してみてもいいのでは? 今のお子さんの状況では最初から支援学校はもったいない気がする。」などと言われ、責めで私が追いつめられましたが、今ではお姉ちゃんも息子に厳しくして温かく見守ってくれています。

これからも息子には試練の連続だと思いますが、少しづつゆっくりでも成長してくれてるので焦らずじっくり見守っていくと感じています。

## ■ヒーリングナビ

**保護者：山下時子**



我が家のお息子はダウン症の有る6歳児（4歳から小学生）です。年長の1年間をひとりの「キッズ」に入園して通っています。先生やお友達に恵まれ、親子共々楽しくひとりの「キッズ」ライフを過ごしていましたが、いよいよ卒園の時が近づいてきました。

ひとりの「キッズ」では、息子の特性にひとつひとつ丁寧に対応して指導内容を考えていただきました。入園当初、ひとりの「キッズ」で過ごすにあたって先生方が息子の膝のことを心配されていました。

前置胎盤だったため息子は予定帝王切開で生まれてきたのですが、生まれてきてみると右膝がクキッと反対側に曲がっていたのです。おなかのなかで足があくに引っかかつて右膝が脱臼していたとのことでした。生まれてすぐに整形外科の

先生から医学書のコピーを渡され、そのままでも自然に治むかと簡単な添え木をしますと説明がつたりしました。正しい形にギブスをして治療は終了したものの、なかなか筋力がつかず、膝が緩い状態が長く続いていました。

そんな息子の膝に万が一のこと

があった場合の緊急マニュアルをひとりの「キッズ」で作ってもらいました。リハビリサイドからのアドバイスで階段昇降が注意力を養つて筋力をつけるのに有効だということを伝えると午前と午後に毎日階段トレーニングをしていただけ

るようになりました。階段トレーニングは登ったホールで園長先生の笑顔を見たり、息子の大好きな扇風機を見せてもらったり、クラスマでのお友達といっしょに登った

り、楽しく続いているようで、成果があつて、軽やかにス皮ートイに階段を駆けの姿を見ることが出来ました。

また、今年の年明けに、ひとりの「キッズ」から星影神社へ初詣に行つたときのこと、それまではお散歩で遅れてしまつて到着するとき

は先に着いたクラスのお友達が「がんばれー」と声援してくれていてくれました。お友達より早く出発すね」という配慮をしてただいて早いまま到着できたとのことでした。とても良いペースで歩いてずっとおしゃべりしてお散歩を楽しんでいた様子を先生からお知らせしていただきまし

ました。

病院の整形外科で1年に1回膝のレントゲンを撮影して経過観察をしてもらっていますが、最近の検査では膝小僧も赤

ちゃん時代の軟骨から骨化してきちんと筋肉が付いてきて良い状態です。ひとりの「キッズ」での階段トレーニングやお散歩の活動が目に見えて結果に結びついていたので喜びもひとしおです。

息子は毎日給食を楽しみにし、毎日連絡帳の給食欄は完食花丸印です。給食の試食会に参加したときもぱくぱく機嫌で食べていました。バランスの良いメニューでとってもおいしく親子で完食しました。品数もたっぷり、デザートも付いていて本当にありがとうございます。

ひとりの「キッズ」時代に温かく信頼できる大好きな先生方やお友達に出会えたのは、息子の一生の宝物になるに違ひありません。感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今年の年明けに、ひとりの「キッズ」から星影神社へ初詣に行つたときのこと、それまではお散歩で遅れてしまつて到着するとき

その「星影の後に」「園でも取締める」とからやつて「おまじょう」とおつしやつてくださり、いつも摂食指導でおすすめされたマッサージを実践していただいています。そのお口のマッサージは、やわらぎ忘れていたり息子からするように催促が来るぐらに定着しています。

就学にむけてこのころの課題が残っていますが、集団で社会性を育むため交流保育に月1回行くことにしました。受け入れの私立幼稚園を探すためにひとりの「キッズ」の先生には尽力していただきました。就学したとき出来ることを増やすため病院でのリハビリも週1回のペースで開始しました。ところにキッズでもリハビリでやつたことがあります。

ひとりの「キッズ」時代に温かく信頼できる大好きな先生方やお友達に出会えたのは、息子の一生の宝物になるに違ひありません。感謝の気持ちでいっぱいです。



# 児童の短期入所をめぐって

むらのこキッズ 管理者 中川公一

今回は障害児童短期入所(以下、児童短期入所)について書きます。児童短期入所の定義は「自宅で介護を行う者(親等)の疾病その他の事由の場合などに際して、短期間夜間を含めての一時利用」。となっています。何だかとても緊急時の対応的で日常生活上での「ちょっと来週の火曜日お泊りに…」という気軽な感じではないようです。

児童短期入所は福祉型と医療型に分かれており、福祉型は児童入所施設や成人の方の入所施設に併設されている場合が殆どで、県内において児童短期入所を単独事業で行っている事業所は殆どない状態です。また医療型も同様で、千葉リハビリテーションセンターを含め県内に数ヶ所程度と非常に少ない状況で、船橋市及びその周辺市に住んでいる方には利用しづらいのが現状です。



学齢期において、①日中活動(学校・放課後等ディイサービス・日中一時支援等)、②社会生活・余暇支援(通学支援/移動支援)、③日常での生活相談や歯科を含めた身近な医療、④緊急時の対応(短期入所)等が、身近な地域に整えば日本人も家族も安心して生

活が過(こ)せることでしょう。必要とするサービスや支援の質や量はお一人おひとり異なります。パーソナルニーズをひとくくりすることなくサービスや支援を組み立てたいものですが、現実はなかなか難しい状況があるようです。

2020年の東京オリンピックを見据えて海外からの観光客の宿泊地の確保でしょうか、住宅用の空き家住宅やマンション・アパートの空室を旅行者の宿泊先として規制緩和する「民泊」というものが議論されているようです。“サービス業”と“福祉サービス”的な違いからなのでしょうか、現行での児童短期入所という制度においての建物の基準としては、

“民泊”的な発想はできないようになっています。(といって“民泊”がいいものだと思つてはいません。)

いていました。(特に小中学生) 学齢期のお子さんに對してのサービスは、お子さんのサービス体系の中で行うべきと考えていますし、そもそも「住む」とこと一時的に「泊まる」ということは利用ニーズが異なっています。

障害福祉サービスに市場原理が持ち込まれる施策となり数年が過ぎました。潜在的ニーズが高い、学齢期のお子さんを対象とした児童短期入所という制度を事業者の方はどう考えているのでしょうか? 前回書きました「放課後等ディイサービス」について、県内のある市町村においては既に事業所数が充足し、利用者の奪い合い? 営業合戦? が始まっているようです。船橋市内はどうでしょうか?

色々と課題が多い児童短期入所ですが、障害福祉サービスに新規参入の事業者の皆さん、ビジネスチャンスですよ。



# カメラハウス

～冬便り～

△グループでは、毎年恒例の忘年会とクリスマス会を行いました。

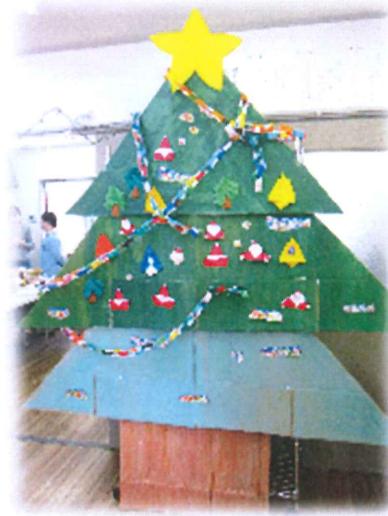
どちらか一つでもいいのではなく、どこの思いも無くはないですが(笑)、利用者の皆さんは毎年とても楽しみにされてるので、受注作業の合間に縫つて計画を立てて、お出掛けしてきました♪

忘年会は西船橋でボーリング大会を行いました!

皆さん僕の思っていた以上に上手にボールを投げ、順調にスコアを伸ばしていくピックリー。最終的なスコアでも僕は利用者さん達に及ばず・・・さすがです!皆さんとっても上手で、楽しそうな笑顔。またいつか、リベンジのボーリング大会を開催しようとも決めたのでした(笑)



おーくん68号P8



今年はスタッフもこつむより気合を入れて、室内で行うクリスマス会には大きなクリスマスツリーを作り、当日の朝にみんなで飾り付け。ケーキを食べたり、プレゼント交換をしたりして盛り上りました。

今年は何がもしかれたのかな?



販売会の様子

秋から冬にかけては、販売会やバザーが沢山ありました。つい先日の2月13日(土)、14日(日)には、毎年出店している『手をつなぐ作品展』に出店してきました!



マリンマラソン  
参加してきました!



手芸品も販売していますが、今年はサイズが大きくなつて進化したパウンドケーキも販売させて頂きました!

パウンドケーキの販売は各事業所の保護者会等でも行わせて頂いております。機会がありましたら是非、見て頂くだけでも結構ですので、足を止めて頂けたら嬉しく思います。

毎日、行田公園で練習を重ね、

毎年マリンマラソンに参加しています。

今年は2人とも無事完走!

一緒に職員も走っています。

3人とも、お疲れ様でした♪

# 物 画 り



ゆたか福祉苑では、十二月に成田エクセルホテル東急にランチに行ってきました。グループを作り三日間行って来ました。どのグループの利用者さんも、普段は見られない表情でとても楽しそうでした。

食事が終わった後の表情は皆さん、なんとも言えない満足感溢れる顔をされていました。一部であります、ご利用者さんのご様子をご紹介します。



あじさい班では新しい作業として、クリスマスや節分などイベントに合わせ作品作りを始めました。最初に紙に絵を描き下地を作ります。次に、お花紙を丸め、ボンドで貼り付けます。ご利用者さん、みな手にボンドを付けながら楽しそうに取り組んでいます。一部ではありますが、ご紹介したいと思います。



「ディズニーキャラクターで制作しました

☆急募☆  
結び織りで使用している布（緑系のTシャツ）が不足しています。ご家庭に眠っている古着をぜひ、あじさい班へ寄付お願いします。



節分に合わせ  
制作した一点です



## 活動紹介

## 冬の大イベント



昨年度の行事になりますが、十一月二十三日にクリスマス会を行いました。ショートムービーを見たりバンド演奏に合わせて歌をうたいました。

ショートムービーでは、部屋を暗にして映画館の様な雰囲気の中でみなさんが静かに映像に見入っていました。ですが、バンド演奏が始まる手を叩いたり立ち上がって体を動かしたりと思い思いに楽しんでいました。歌では一緒にうたつたりと大いに盛り上がりました。最後は、サンタクロースもやってきました。お菓子のプレゼントを下さいました。



2016年のまる最初の行事といえば・・・餅つき大会今年は、餅つきだけではなく団まきも行ないました。少し寒い日でしたが、天気も良く絶好の餅つき日和でした。臼と杵を使い出来上がつてくるお餅を楽しみに待たれる方や杵を使うのが楽しくて何度もお餅をつく方もいらっしゃいました。みんなでついたお餅は、買ったものとは違いとても美味しかったようです。

豆まきでは、赤鬼と青鬼になったスタッフに勢いよく豆を投げたり投げずにじ自分のお腹に入れたりと思い思いに一足早い節分を楽しんでいました。

(のまる：永嶋)

パーティーと個室を借り、各自部屋に分かれると、皆さん順番にご自分の十八番を熱唱！マラカスやタンバリンの盛り上げ部隊も大いに場を盛り上げてくださいました。

昼食はスリーエフのミックス弁当（笑）でしたが、ドリンクバーでお菓子も用意し、満足して頂けたようです。食事の後も曲を入れ続け、途切れることなく時間となりました。まだまだ物足りない方もいらっしゃり、惜しみながらバスへ戻っていました。



## はいよう

～歌と食欲の冬～

新しい年がスタートし気が付けばもう三月、早いものですね。

けいようでは、一月二十九日（金）に新年一発目の行事として、千葉ユータウンのビッグホップ内にある『カラオケレインボー』というお店に行き、【新春カラオケ大会】と題した新年会を開催致しました！

パーティーと個室を借り、各自部屋に分かれると、皆さん順番にご自分の十八番を熱唱！マラカスやタンバリンの盛り上げ部隊も大いに場を盛り上げてくださいました。

昼食はスリーエフのミックス弁当（笑）でしたが、ドリンク

バーでお菓子も用意し、満足して頂けたようです。食事

の後も曲を入れ続け、途切れることなく時間となりました。まだまだ物足りない方もいらっしゃり、惜しみながらバスへ戻っていました。

そして、二月三月は3班それぞれ別々に外出行事に行って来ました。班ごとに行きたい所を決めましたが、なんと3班全て食事メイン一流石です。（笑）

イタリアンバイキング、ホテルバイキング、オムライス専門店。何日も前から皆さん楽しみにされていて、当日はヤル気満々で出発していきました。各々お好きな物をたらふく食べお腹いっぱい。皆さんとても良い顔をされていました！

## ホーム 通信

◎風間建設さん主催の餅つき大会に参加しました！

昨年に続いて、グループホーム「おり家」のご近所である”風間建設”さんから餅つき大会のご案内を頂き12月26日DDホームズ5個所のホームから計8名の入居者さんと世話人數名で参加してきました。入居者の皆さんは、テントの下に設置された長机に場所をとて感謝申し上げます。今後とも宜しくお願いします。

DDホームズ・サービス管理  
責任者

渡邊隆宣



## おーふん67号読者感想文..カメリアハウス編

新年が始まり、冬から春へと流れている日々です。

毎号『おーふん』を楽しみに拝読していること、『どうのこキッズ』と『わせんかキッズ』の記事にほっこりしています。私の息子はもう大人なので、このよだな記事を読むと小さい時を思い出し懐かしくなります。親子遠足に電車で行ったり公園や水族館で遊び、美味しいお弁当を食べて皆んな笑顔の一日。運動会は家族参加で元気いっぱいな一日。どれも可愛い姿が浮かびます。

私が息子の送迎の途中にキッズの親子さんと会つことがあります。バスを待っている間、手遊びなどしてしたり、寒い日はマフラーで温かくいています。

私は我が子を愛おしむる母様に心の中からエールを送りたいです。これからもたくさん楽しい経験をしてくださいね。

カメリアハウス保護者  
原田 文子

さらに、千葉県警から移動交番も来ていて、婦警さんから説明を受けたり車両の前で写真に納まつたりと、日頃は体験できないような時間を過ごすことが出来ました。

本当に、四等のモヤシは大当たりませんでしたが、三等の大根に、四等のモヤシは大当たり。食べきれないくらいの量をお土産に持ち帰ってきました。

67号では差別解消法についての記事が目に留まりました。私たちが支援者として利用者の皆さんと関わっていることで、”障がい者”という存在は特別なものではないようになります。ですが、地域の中にひとたび出てみると、未だに障がい者は異質な存在として見なされてしまう現実があるように思います。

活動等で地域に行くと、どうしても冷たい視線や心無い言葉・嘲笑を受けることがあります。哀しいことだな、と思いつつもある意味では当然のことであるように感じます。「人と違うこと」を人は極端に嫌います。その違った違い”が”恐怖感”に繋がってしまうのかもしれません。法律として差別を禁止することそれ自体を無意味であるとは言えませんが、直接的に障害福祉に関わりのない人たちにも彼らを知つてもらう機会を作っていくことが大切なかなと思います。知らないから怖かつたり、必要以上に避けてしまつたりしてしまつものではないでしょうか。

利用者さんが、地域で暮らしていくようサポートしていきます。

カメリアハウス職員 駒田 啓太



# わざひんかキッズ ～冬の行事～

おーふん68号P12

いよいよ季節が替わり、冬の行事が始まりました。今日は、わざひんかキッズの冬の行事を紹介します。



今年もみんなが元気にすごせますように。



軍手隊☆手遊びやペーパーサートを使って披露してくれました♪

初めの行事が目白押しだったさざんかキッズ。来年度も子ども達の笑顔が溢れる行事について語ります☆



寒い日が続いています。さざんかキッズの子どもたちは毎日元気いっぱいです☆十一月は、クリスマス発表会がありました。いつもと違う雰囲気で緊張していた子ども達ですが、どのクラスもとても可愛い発表でした。そして、サンタさんととなりんの登場にみんな大喜び！嬉しそうにプレゼントを受け取っていました♪



物もあり、盛り上がり！最後には保護者会からの絵本のプレゼントをサンタさんから貰つてとっても嬉しそうな子ども達でした☆

各クラスで行われた豆まき。いつも過ごしているクラスにオニが登場し、みんなビックリー。悪い事をするオニをやつつけようと、手作りの豆をまいてオニを退治しました！みんなの逞しい姿にオニも「まいった」と降参：最後はオニと仲直りの「オニのパンツ」の手遊びをしました☆



さざんかキッズは冬の行事が目白押しでした！

☆クリスマス発表会☆

二〇一六年最初の行事は獅子舞集会でした☆初めて見る「獅子」にみんな目を丸くしていました。「今年一年元気に過ごせますように！」と、一人ひとり頭を噛んでむりつたり、ちょっと噛まれるのは怖い子は手を差し出して噛んでもらつたり…と初めて見る迫力ある獅子との触れ合いを楽しんでいました☆



☆獅子舞集会☆

# 北総の里だより

**北総育成園副園長 白樺久子**

昨年の今頃は、大規模改修工事が終了し、その新しい生活への引っ越し準備に大わらわであった。平成23年から船橋市事業の大工事を横に見ながらの生活が3年継続された。バリアフリー新棟での暮らしは平成25年9月から、高齢の方や重い障害を持つ方も増え、ようやく新しい暮らしになれた頃の再度の引っ越し。そして75名の暮らしは「個室化」された。新棟56部屋は10m<sup>2</sup>約6畳、本館は14m<sup>2</sup>約10畳の個室である。今までの居住空間の2・5倍の広さになった。エレベーターや介護浴槽ができ食堂は2か所になり全館を移動する職員はよく迷子になつたが、新しい自室を間違える利用者はほとんどいなかつた。



12月に1回、1月に2回、福島県喜多方町から椎茸の原木が大きなトラックで運搬されてきた。早朝7時、林産班の男性利用者さんは、職員とともにヘルメットに安全靴姿、福島の雪が積もった原木を黙々と運ぶ。林産班を助けようと10人の男子職員が手伝いに来てくれた。約1時間の原木おろし。

それから1年がたち平成28年の早春である。年末正月の暖かさはどこへやら、1月日本列島は大寒波に見舞われ、東北上信越ばかりでなく、九州も大変な被害をつけ、沖縄奄美大島にも雪が舞つた。そんな中でも千葉は穏やかな気候

にも恵まれ特にこの香取東庄は少しの雪もちらつかなかつた。おかげで、北総の里のじの人達は「働くこと生きること」の毎日に誇りを持って暮らしている。

12月に1回、1月に2回、福島県喜多方町から椎茸の原木が大きなトラックで運搬されてきた。早朝7時、林産班の男性利用者さんは、職員とともにヘルメットに安全靴姿、福島の雪が積もった原木を黙々と運ぶ。林産班を助けようと10人の男子職員が手伝いに来てくれた。約1時間の原木おろし。

さて、もうすぐ作業班旅行。今年は世界遺産になつた富岡製糸場がメインである。温かい温泉につかり、おいしい食事とお酒に舌鼓を打ち、お互いの労をねぎらう楽しい旅になるだろう。しかし、全員参加できるわけがない。健康管理の面で旅行は困難な利用者も増えてい。つい先日も、肺炎で入院をした方がいる。今まで北総の中ではみんなの面倒を見ててくれる能力があつた人だ

が、この1年体力気力が著しく低下し、退院後はかなり介助を要する状態になつた。旅行の参加は難しそうだ。その判断もつづりこことである。

年末大忙しだった門松づくりの木工班。手作り干支人形の陶芸班と紙工芸班。園芸班のフレームの花はシクラメンからサイネリアに移り変わつた。小学校の卒業式などへの注文が多い。明日は

今年は都合3500本がきれいに積み上げられた。朝食に牛丼を食べながらその原木を見る。早速日中の仕事で原木を運び、ドリルで穴をあけ、菌打ち仕事。言葉は少ないこの人達は白い息を吐き顎を紅潮させ走るように嬉々として仕事をしている。

林産班の原木おろしと共に農耕班の切り干し大根は、北総の里の冬の風物詩である。年々の暖冬で切り干し大根つくりの開始時期が遅くなっているが、霜が降り乾燥した寒風が続けば、甘く滋味あふれる切り干し大根に仕上がる。1月はその最盛期、広い畑で大根を抜き、洗い、刻んで、広げて干す。洗いや刻みは人力だけでなく専用の機械も駆使する。一般販売だけでなく、道の駅や通信販売でも大好評、地元の保育園に定期的に納入。パッキングが間に合わないほどのうれしい悲鳴。今日は実習生さんが皆と共に切り干し大根を広げていた。利用者さんが笑顔で誇らしげにその手順を教えている。

さて、もうすぐ作業班旅行。今年は世界遺産になつた富岡製糸場がメインである。温かい温泉につかり、おいしい食事とお酒に舌鼓を打ち、お互いの労をねぎらう楽しい旅になるだろう。しかし、全員参加できることではない。健康管理の面で旅行は困難な利用者も増えてい。つい先日も、肺炎で入院をした方がいる。今まで北総の中ではみんなの面倒を見ててくれる能力があつた人だが、この1年体力気力が著しく低下し、退院後はかなり介助を要する状態になつた。旅行の参加は難しそうだ。その判断もつづりこことである。

船橋まで配達だ。

手芸介護班は手作りのエプロンやバックを作る傍らで、一人ひとり

の移動・トイレ介助・水分補給・食事介助にあたる。日中は、皆自分の

先日、佐原～銚子間をS-Lが走った。もくもくと蒸氣を擧げる機関車を見に行つた。3年前に一緒に見た何人かは、今年は見に行くことが出来なかつた。最終日ようやく晴れた笹川駅に普段見たことのないようなたくさんのお客さんが降り立つた。北総も店を出した。切り干しや椎茸やサイナリア、エプロンや干支人形等を手にしてくれたお客様に、北総のこの人達の仕事が少しでも伝わりますように。そして「働くこと生きる」と大切に積み重ねていく毎日が今日も始まる。

■ □ ■ □ ■ □

寒くなりつつある十一月後半、東庄の街中に夏みかんが色つき始める頃、農産加工班の冬仕事、夏みかんピールの製造が始まります。職員はもとより、H房より発行される「お知らせ」により保護者の皆様がご自宅やご近所、ご親戚の方々の好意もあり、夏みかんは集められます。集まつた夏みかんはジャム用、ピール用に選別されて加工されます。夏みかんピールの工程は驚くほど多く、ほぼ利用者さんの手によつて加工が進められます。



- ① 洗い ②汚れの皮むき ③四つ切 ④外皮むき ⑤外皮切り ⑥ゆでこぼし三回 ⑦ジップロック入れ
- ⑧冷凍保存 となつます。包丁や火を使用する時は職員も関わりますが、利用者さんの担当する作業工程の多い仕事です。その後、刻んだ外皮の砂糖煮が始まります。⑨小さい番重に紙を敷く ⑩湯がいた皮を煮る ⑪箸で綺麗に並べる ⑫そのまま一晩乾燥する ⑬乾燥したピールを砂糖でまぶし、そのまま一晩乾燥する

## 笹川なづな工房 冬仕事

### 支援員 竹内愛子

この工程も全て利用者さんの仕事です。そして初めて店頭や、常設店に並べられるのです。外気が乾燥している今だからこそ出来る仕事なのです。基本的に農産加工班、いや工房の利用者さんは働き者です。忙しくても愚痴一つこぼさず、黙々と仕事を熟してくれています。その姿を毎日のように見ていくと、少しでも商品価値をアッピしてこじり、私たちも今以上に頑張つて販売をしていくことに考えるのです。農産加工班での忙しい中、製パン班も冬場は大忙しです。特に週末は提携させて頂いている観光いちご園さんからのマフィン注文が集中し、三百個～四百個程、並行してパンの製造も行つていて、てんやわんやの大忙しです。プラス週末はイベント販売も重なる事もあり、全員体制での製造を行います。

一日の11十九（金）三十（土）、三十一（日）の三日間佐原～銚子間をS-Lが走り、唯一の停車場所、東庄町でも笹川駅前広場での販売がありました。一日田、二日田と冷たい雨風の中販売は行われました。三日田は晴れで暖かい一日となり、お客様も沢山来て頂き、午前中にはほぼ完売となり、嬉しい限りでした。一回田となるS-L販売も無事終了。真近で見たS-Lの走る姿は勇壮で、力強く、一步一歩、牛歩の如く線路を踏みしめて走つてゐる感じました。おみやげで、私たちの歩んだ姿のようでした。また、利用者さん、職員が一体となつて頑張ることは、大変な事もあるけれど、終わった時の達成感はとても素晴らしいと思います。毎日が地道な努力の繰り返しですが、夏の行事も沢山あります。こんな忙しい中ですが、是非一度笹川なづな工房にいらっしゃいませんか？冬場でしか味わえない「夏みかんピール」を是非ご賞味下さい。お待ちいたしております。

# ラジオ発



こんなにちは。いつもじ揃読、感謝いたします。

わい、今回は「福祉有償運送事業」について、お話をさせて頂きます。この事業について当事業所としては、平成24年4月から開始したサービスです。このサービスは、いつも皆様がご利用して頂いている移動支援や障害福祉サービス（行動援護や重度訪問介護など）時に、公共交通機関ではなく、ワンラップの車を利用して移動ができるとのことです。

社有償運送運営協議会にて審査を受け、その基準通り実施しております。また、運転手はそのサービスに入るヘルパーが兼務するのですが、それらもきちんと他団体が主催する福祉有償運送運転者講習というものを受け、そちらで資格を得てから運転し

福祉有償運送を「」利用したいと  
いう方につけましても、当事業所で  
は制限を設けております。18歳以上  
の方しか利用できないということ  
です。児童の「」利用者様につきまし  
ては、当事業所の取り決めにより登  
録できません。満18歳になつたら、  
「」利用可能となります。

次に手続き等に関しては、まず当  
事業所で用意しております「魔法の  
ランプ福祉有償登録申込書」に必要  
事項を「」記入の上、「」提出頂き、そ  
れを基に船橋市に顧客リストとし  
て登録を致します。船橋市に登録申  
請をしてから、初めて利用が可能と  
なります。「」利用されたいという方  
は、事前にサービス依頼をされる時  
に同時に「有償運送希望」と「」記入  
の上申し込んで下さい。

したします。

わて、今回ま「福祉有償運送事業」について、お詫びをさせて頂きます。この事業について当事業所としては、平成24年4月から開始したサービスです。このサービスは、いつも皆様がご利用して頂いている移動支援

福社有償運送を「利用したい」という方につきましては、当事業所では制限を設けております。18歳以上の方しか利用できませんことにつきましては、当事業所の取り決めによる登録できません。満18歳になつたら、「利用可能となります。

車両はワゴン車（普通運）とSH、  
タ（車椅子乗降専用）の2台しかあ  
りませんので調整が必要となります。  
調整ができ、利用可能となります  
したが、当日、福祉有償運送での移  
動が可能となります。

また当然『福祉「有償」運送』と  
いうくらいなので、利用料金が発生  
いたします。

A side-profile photograph of a light green Toyota Noah minivan parked in a parking lot. The vehicle has a sliding door on the driver's side and a license plate that reads "KAN-111". The background shows other parked cars and a building.

介助料金を設定しております。この場で、400円を頂戴しております。この場合でいう介助料金とは、以下の基準を定めています。「※」の場合の「介助」とは乗降時の介助（車いすへの移乗など）、車から自宅・送迎場所の付き添い車両から出ての声かけなどや働きかけのことを言い、ヘルパーが運転のみを行う場合については、介助料金は発生しません。（例えば、ヘルパーが「利用者様の体に触れる必要がある場合やシートベルトが自ら出ないような場合」）しかし、中々車に乗つて頂けない、若しくは降りられないとかで20分以上乗降に時間が掛かってしまうと、同じでも介助料金が発生し、20分以降は10分毎に100円が加算されますので、お気を付けて下さい。また、その他に出掛けた先で車を駐車してその場を離れサービスを行った場合の駐車料金も「利用者様の実費負担となりますので、ご注意下さい。

笹川駅を走ったSLく笹川なづな工房提供>



次に「J利用に際してのお願いがござります。前項でも話したかと思いますが、「J利用される場合には、移動支援等、他のサービスとの併用で「J利用下さい。送迎のみの利用は基本的に受け付けていません。但し緊急時の場合は「J相談下さい。」Jからヘルパーを手配しますので、送迎のみの「J利用では時間が短いために手配ができません。その為に、他のサービスとの併用をお願いし、余暇支援を交えた外出をお願いしております。また、他の人の利用が重なってしまつような場合は緊急性の高いものを優先させて頂れます。

御理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

次に気になる利用状況ですが、「J契約者の中では圧倒的に男性利用者が多いことから、利用されている方は殆ど男性ばかりです。平均月10名の方が常時「J利用になつております。今年度、1回だけ女性の「J利用があつたくらいです。割とワピーターの方々が殆どで、1人当たり、月に1~3回は「J利用になつております。何か「J利用されたい時は、遠慮なく「J連絡ください。

この福祉有償運送事業の課題ですが、まずは「J利用されたいという方の「J希望が少ないということでしょうか?無論、公共交通機関と違い、利用料が高くなつてしまいますが、当然のことかと思います。

次に女性の「J利用者様が少ないという事でしようか?現状、運転できる女性ヘルパーが1名しか確保できていなない為でもあるかもしません。

車輌の事故について、現段階ではサービス中の事故は「Jやいません。安全運転で実施させて頂いております。つきましては、この度当事業所所有の有

償運送事業の車両とも事故予防と事故発生などの記録を残す為に「ドライブレコーダー」を取り付けさせて頂きました。これはただ記録するばかりではなく、運転者の交通講習にも役立てるにあたいと思っております。

最後に話は変わりますが、そろそろ新年度を迎えるようになります。ピンク色の受給者証にある移動支援事業の更新が近づいております。新しへピンク色の受給者証が届きましたら、当事業所おで「J一報いただけ、契約更新をさせて頂ければと存じます。「J連絡お待ち申しあげております。尚、新規利用の方につきましては、ヘルパー(人頭)が増やせており、今しごりくお待ち下さる。

よろしくお願ひ申し上げます。



# さざんか会後援会

## ■さざんか会後援会

にとつてもサービスが利用できなくなる恐れもあり、深刻な問題です。

### 評議員会報告

のまみの泉一成施設長からは、看護師の確保や高齢化の課題について説明がありました。

1月14日（木）さざんか会後援会の評議員会がけいよう会議室を借りて役員が集まり開催しました。

宮代隆治理事長から法人が直面する課題等の説明がありました。

#### ① 職員の確保

期入所や住まつ場の確保

③ 利用者の高齢化 特に利用

④ グループホームの質や量の拡充について

⑤ さざんかキッズはスタート

したが、まだ入れず困っている家族がいる

⑥ 法改正により社会福祉法人の新たな社会貢献が求められる

後援会事務局会計からは

① 法人への寄付

② ゆたか福祉苑やけいよう、さざんかキッズ落成式へのお祝い金など

について報告がありました。

1月29日（金）船橋市中央公民館4階集会室（2）で小児科医師でありNPOコスモスの花代表理事の前本達男先生の講演会が、会場（定員48人）満席の中開催されました。

さざんか会後援会が主催し、若い親向けの講演会を開催したいとの意向で、初めて行われました。

先生から「泉さん福祉ってなんですか」と質問され咄嗟にことばにならないのです。

福祉を仕事にする人は、福祉を熱く語るが、言葉の意味を

語らないと言われ「そうち」と思つところがありま

す。さりに障害受容といふけれど大きなお世話だ、と。そうですね。年齢を重ねることも死ぬことも発達なんだ、と改めて考えさせられました。

講演が終わった後も、お母さんや親子教室の先生から質問され丁寧に答えておられました。

前本先生は、今も旭中央病院の小児科発達外来を週2回担当しています。

また、東総地区の児童発達支援センターの嘱託医

も担当され、日々お忙し中、船橋にお越しいただいたこと、深く感謝申し上げます。講堂をお借りし、御礼申し上げます。

さざんかキッズやどらのこキッズの保護者会と相談して毎年開催できればうれしいですね。ま

ずは、継続は力なりでしょうか。

さざんか会

のまみの管理者

泉一成

# 船橋市と防災協定締結



船橋市が想定する要配慮者は約四万人。受け入れ施設への移送は家族が主に行いますが、市の要請で施設側が迎えに行くことも検討いたします。

大久保学園、千葉福祉援護会の誠光園、ローゼンヒル藤原、さざんか会のまるの4つの施設が協定を結んだものです。

平成28年1月12日せざんか会のまるはじめ、三つの社会福祉法人と船橋市が要配慮者の受け入れについて協定を結びました。

東日本大震災から五年、いまも避難所生活を余儀なくされている方がたくさんおられます。この大震災でも障害がある方の避難所生活での困難さが指摘されています。福祉避難所では一般避難所も兼ねているためストレスがたまりやすく、他の避難者とのトラブルも避けたいといいます。

避難した場所から、自宅方向を見るに火の手が上がっていた。まさかと思い、車で自宅に向かうが、渋滞で迂回する。自宅近くで消防署員に「火災です。この先は通行封鎖です。」と言われる。「いや、あの家の隣の住人ですか。犬もいます。鳴き声がします。犬もいます。通してくれました。我が家から2軒先の家から出火。愛犬は火災の恐怖に怯え震えていました。

東日本大震災のあった日から三日後、旭市の障害者施設専務理事から「ライフラインがダメだよ。できたら水を送って」と言われ、酒々井町の水を送りました。その専務理事は、自らの体調を顧みず施設利用者や近隣の人の為寸暇を惜しまず救援に走りました。命を惜しまず他人に廻すことで天命を全うしました。自らの命と向き合つ中、世阿弥の「離見の見」を教えました。端的に言えば、自分の命を離れ客観的に見つめることです。命廻さるまで自らであることを実践してきた先達に見習いたいといいます。

## ■編者の一燈照隅

2011年3月11日午後2時46分ゆっくろと建物が揺れた。

ビルの6階について、隣の初老の紳士は「まだ死にたくない」と叫び恐怖を露わにした。書棚は倒れ、目の前に書籍が散乱した。

自らも「これは危ない」と思い、揺れが収まるごとに階段を伝い、外へ避難する。すると外には大勢の人々が集まり、恐怖感を口にする。

あれから5年の歳月が流れました。まだ多くの被災者が避難所生活を余儀なくされている。少しでも早く復興することを願って、復興税を納税しています。私にできることがあります。

していただきたい。大船渡市、「綾里漁協

」食べる通信で海産物を注文し食すことも一つかと。現地で何かお手伝いができることも少ないので、ひたすら食べて、復興支援に参加です。

東日本大震災のあつた日から三日後、旭市の障害者施設専務理事から「ライフラインがダメだよ。できたら水を送って」と言われ、酒々井町の水を送りました。その専務理事は、自らの体調を顧みず施設利用者や近隣の人の為寸暇を惜しまず救援に走りました。命を惜しまず他人に廻すことで天命を全うしました。自らの命と向き合つ中、世阿弥の「離見の見」を教えました。端的に言えば、自分の命を離れ客観的に見つめることです。命廻さるまで自らであることを実践してきた先達に見習いたいといいます。